

秋田県立大学 図書館だより



No. 3 2001.10

》》》》》》》》》 目 次 《《《《《《《《《《

図書館利用の思い出 システム科学技術学部長 神山 新一	1
蔵書のディスク化に思う 図書・情報委員会図書運営部会長 松本 聡	3
図書館利用案内：図書館ホームページの紹介	4
資料探索法：新聞記事を探す	5
図書館からのお知らせ	7



図書館利用の思い出

システム科学技術学部長 神山 新一

本荘キャンパス図書・情報センターの担当者から、図書館だよりNo.3に「学生生活と図書館」というような題目で寄稿をとの依頼を受けました。図書館の利用法も私が学生時代に経験した頃とは大分様変わりしてきておりますが、私が学生時代に体験した図書館の利用法を学生諸君に読んでもらうのも良い機会かと思い、私の学生時代の思い出を中心に、書いてみることにしました。

1. 私の学生時代の思い出

大学生時代の図書館の思い出としては、東北大学に入学して、附属図書館での蔵書の素晴らしさに目を見張ったことに始まりますが、具体的な利用の面で強く印象に残っているのは、3年生になり機械工学科に進んでからの図書室の

利用でしょう。薄暗い感じの部屋で余りよい環境ではありませんでしたが、雑誌収納棚には機械工学関係の外国の論文誌がぎっしり詰まっておりました。

大学4年生になった頃から、自分の将来の専門分野について真剣に考えるようになりました。あれこれ悩んでいた頃のある日、一冊の本が目にとまりました。それは、カルマン渦列で有名なカルマン博士が書かれた「飛行の理論」(谷一郎訳)という本でした。

この本は、カルマン博士が1953年(ライト兄弟の動力飛行機での初飛行に成功した1903年から丁度50年にあたる)にコーネル大学で6晩にわたって行った記念講演「空気力学の50年」を後で一冊の本にまとめたものでした。

原著は“Aerodynamics; Selected Topics in the Light of Their Historical Development”となっていますが、その日本語版がカルマン博士のもとで助手として働いたことのある谷一郎先生の翻訳で1956年に岩波書店から出版された訳です。

私はこの本を読んでいるうちに、流体力学の素晴らしさに魅せられてしまいました。それまでに読んでいた流体力学の教科書や参考書、専門書からは、流体力学という学問は、数式の羅列でかなり難しそうな分野であると感じていましたが、カルマン博士は、流体力学の話の数々のエピソードをまじえて平易な文章で書いており（谷先生の翻訳も見事なものでした）、自然に学ぶことの大切さなど、多くの教訓が得られたと思います。卒業後の進路は、流体力学に関係する仕事に就きたいと思うようになりました。

2. 研究論文の検索

大学院に進んでからの大学図書館との関係は一層密なものとなりました。大学院修士課程での研究課題として指導教官（沼知教授）から与えられたテーマは「水車吸出管の振動について」でした。先生からの直接の指導は、「今、電力会社では、水力発電設備の振動問題が重要関心事となっている。どうも、水車の部分負荷運転時にキャビテーションが発生しているようで、吸出管の振動を誘起していると思われる。この問題は、学問的にも面白い研究テーマになると思うから、君やってみなさい」と言う一言だけでした。

さて、何から手を付ければよいのか、お忙しい先生にどう始めればよいのかを聞くわけにも行かず、皆目見当も付かぬまま、悩んでおりましたが、とりあえず、機械工学科の図書室に日参して、これまでの水車の振動問題に関する研究資料を調べてみようと思いました。

図書室で、総合索引目録（和文と英文）から事項索引で水車吸出し管、キャビテーション、流体振動の項目に該当する論文を調べ、その論文の引用文献から、また、関係する論文を孫引きするという方法で、吸出管の振動問題に関係していそうな論文を集めました。東北大学に無い文献は他大学や国会図書館に行って調べました。このような地道な作業を一年がかりで行っているうちに、水車吸出管内の流れが、部分負荷運転時に旋回運動を起こし、それが振動を誘

発しているらしいことが分かり、それに関する研究の現状を把握することができました。あとは、この問題に関する自分なりのアイデアに基づく流体振動機構のモデル化とその解析法を考え、理論的に振動現象を解明することで修士論文としてまとめることができました。

3. 海外での経験

1961年9月から62年8月まで文部省在外研究員制度を利用して、英国のケンブリッジ大学と米国のミシガン大学に客員教授として滞在する機会を持ちました。ケンブリッジ大学ではEngineering Dept.とTrinity Collegeに所属しておりました。Trinity Collegeにはあの有名なWren Libraryがあります。この図書館は、建築家Wren氏の見事な設計で、書籍に直接日があたらないようにして、しかも、室内が外部からの自然光で明るい雰囲気醸し出すようになっておりました（写真参照）。また、館内には大学に関係して活躍したニュートン、トムソン、マクスウェルなどの科学者、バイロン（写真正面の像）、テニスン、ワーズワースなどの詩人の胸像があり、勉学する場として素晴らしい環境を構成しておりました。



ミシガン大学ではキャンパス毎に図書館もありましたが、Central Campusの図書館は土曜日、日曜日でも開館しておりました。私のいたNorth Campusからはバスで15分ほどの所にCentral Campusがありました。図書館の東洋関係の書物を集めた部屋には、日本の雑誌や新聞も整備されておりましたので、外部からの訪問者にも非常に便利な利用ができ、大変助かつ

た思い出があります。

4. 最近の図書館の利用法

最近の情報技術関係の進歩により、私が学生時代に経験した情報収集法とは大幅に変化してきております。また、図書館内の設備も更新されてきており、情報の収集に便利な仕組みがとられております。私の学生時代の頃、少ない情

報をもとに苦心惨憺して、ようやく目的の文献を探し当てた時の感激はひとしおのものがありません。最近では、各種情報のデータベース化が進み、あまりにも多くの情報がいながらにして容易に入手出来るようになりました。その中から、如何に必要な情報を効率よく選択するかが重要になってきているように思われます。



蔵書のディスク化に思う

生物資源科学部生物環境科学科教授
(図書・情報委員会図書運営部会長)

松本 聡

教育・研究の場はもちろんのこと、一般社会における図書館の重要性を今更述べるつもりはないが、十数年前の図書館のイメージと現在とは既に隔世の感がある。現在のように膨大な情報が溢れ返っているにも拘わらず、居ながらにしてほしい情報をインターネットで検索して、瞬時にディスプレイに呼び出せる状況におかされると、調べものがあるたびごとに図書館に足を運んでいた十数年前を思い出すにつけ、その感是非常に強いものがある。そのため、図書館の有難さや利便さを以前ほど直接に感じることは確かに少なくなり、少しずつではあるが、図書館がかつての身近な存在から遠ざかっていくような気がしてならない。因みに大学の図書館の閲覧室をのぞいてみても、大抵の大学の図書館では閲覧室での利用者数が少なくなっているようである。このように、文献の検索や関連した研究の情報収集の作業を研究室や自宅で時間に拘束されることなしに、自由にできることはとりわけ若い人たちにとっては大きな魅力となっているのは当然のことであろう。さらに最近では、専門の学会誌の一部では、学会誌の印刷をディスク化し、膨大な情報とデータがコンパクトなディスクに収められているところさえあり、蔵書についてもまったく同様の道をたどらない保証はどこにもない。

だが、果たして図書館の利用は情報収集や文献検索だけのために、今も、昔も多くの人々に利用されてきているであろうか。筆者は決してそれだけではないと思う。欧米諸国の歴史のあ

る、大きい大学や研究所を訪問すると、真っ先に図書館を案内してくれるのは、図書館がその大学の、その研究所の「顔」であると彼らは信じているからに他ならない。そこには、17世紀や18世紀に出版された古い蔵書が整然と書架に並べられているのを見ると、つい文化や学問の重みを感じないわけにはいられない。仮に、マイクロフィルムやディスクにこれらの蔵書が納められている書架を見たら、実質的には同じ知的財産の集積形態でありながら、同じような歴史の重量感を感じるであろうか。すぐに手にとってその場で著者の当時の状況にタイムスリップできるのは、印刷を通して、蔵書には独特の臨在感とも言うべきものが備わっているからであろう。

開闢3年目に当たるわが秋田県立大学の図書館で驚くことは、蔵書が非常に多いことである。これには、書籍の収集にご努力された先生方の貢献が非常に大きく、誠に悦ばしい限りである。しかし、反面、どこの大学でも、増加し続ける学会誌のスペースの確保に悩まされている。新規性が重要視される自然科学系の学術雑誌は古いものから順にディスク化せざるを得なくなることがわが大学でも近い将来起ることが予想されるが、それはしかたがないこととしても、蔵書は新旧に関わりなく書架に集積されていくことを是非ともお願いしたい。何故ならば、それこそわが大学の特徴ある顔として次第に形成されて行くものであると思うからである。

図書館利用案内——ホームページの紹介

イントラネットの「図書館ホームページ」、あるいは県立大学ホームページの「図書・情報センター」をクリックすると図書・情報センターホームページがご覧いただけます。

ここでは図書館に関する内容について紹介します。



「利用案内」… 図書館利用の基本的な案内や相互利用（複数の図書館間で資料の貸借やコピーを依頼・受付するもの）に関する案内があります。

「図書館だより」… 創刊号からの図書館だよりがPDF形式でご覧いただけます。

「開館カレンダー」… 一年間の図書館の開館予定日を確認できます。

「施設案内」… 秋田・本荘両キャンパスの図書館内の配置がわかります。

「蔵書検索(OPAC)」… 県立大学(秋田・本荘両キャンパス、短期大学部)の所蔵資料を検索することができます。

「購読雑誌一覧」… 当該年度に購読が予定されている雑誌の一覧をキャンパス別にみることができます。利用可能なオンラインジャーナルがある場合には雑誌名にリンクがはられています(学内利用のみ)。

購読していなくても利用できるオンラインジャーナルがあれば掲載しています(「OUP電子ジャーナル」)。

「寄贈雑誌一覧」… 整理が終わった寄贈雑誌の一覧が掲載されています。

「論文検索」… 『雑誌記事索引』等のインターネット上で利用可能な記事検索データベースの情報があります。

「リンク集」… 県内の公共図書館や大学図書館、オンライン書店などの情報があります。

「図書館からのお知らせ」… オリエンテーションの日程や休業期間中の開館時間と貸出冊数の変更など図書館からのお知らせが載せられています。

資料探索法——新聞記事を探す

様々な情報を得るためのツールは図書や雑誌だけではありません。新聞記事はほぼ毎日更新されるため、世間の動向の最新情報が入手できます。ここでは、図書・情報センターの購読新聞のタイトルと保存状況、その他の新聞の探し方などを紹介します。

図書・情報センター所蔵タイトル

(平成13年10月現在)

タ イ ト ル	保 存 期 間	秋田キャンパス	本荘キャンパス
秋田魁新報	1 年	○	○
朝日新聞	1 年	○	○
河北新報	1 年	○	○
さきがけスポーツ	1 年	○ (H13.4～購読)	
産経新聞	1 年	○	○
日刊スポーツ	1 年	(H13.3まで購読)	○
日刊工業新聞	1 年	○	○
日本教育新聞	1 年	○	○
日本経済新聞	1 年	○	○
日本工業新聞	1 年	○	○
日本農業新聞	1 年	○	
毎日新聞	1 年	○	○
読売新聞	1 年	○	○
Japan Times	1 年	○	○

次のような年鑑も所蔵しています。一冊に過去一年間のニュースや情報がまとめられているため、概略を知るのに便利です。

- 『秋田魁年鑑』 '00-02 秋田魁新報社 秋田・本荘参考図書コーナー 059.124:A37
- 『朝日年鑑』 '99-00 朝日新聞社 秋田・本荘参考図書コーナー 059.1:A82
- 『河北年鑑』 '00-01 河北新報社 秋田参考図書コーナー 059.1:Ka11
- 『読売年鑑』 '99-00 読売新聞社 本荘参考図書コーナー 059.1:Y81

購読している以外の新聞記事を読む

どんな新聞があるか調べるには次のような資料が役立ちます。

- 『雑誌新聞総かたろぐ』メディア・リサーチ・センター 秋田・本荘参考図書コーナー 027.5:Me14
- 『日本新聞雑誌便覧』日本新聞雑誌調査会 本荘参考図書コーナー 070.35:N71
- 『Ulrich's international periodicals directory』R.R.Bowker 本荘参考図書コーナー 027.5:U62

インターネットを通じて世界中の新聞を読むことが可能です。

- 日本新聞協会 <http://www.pressnet.or.jp/index.htm>
日本新聞協会に加盟している全国新聞社の連絡先やホームページがわかります。
- ふるさとサイバーワールド <http://www.j-news.or.jp/>
地域新聞マルチメディア・ネットワーク協議会に加盟している地域新聞社のホームページで、各新聞社へのリンクがはられています。
- 日本専門新聞協会 <http://www.senmonshinbun.or.jp/>
日本専門新聞協会に加盟している新聞社のホームページのリンク集や連絡先があります。
- 世界のメディア <http://www.nikkei.co.jp/ss/media.html/>
世界の新聞社のホームページへのリンク集です。

《参考文献》

早稲田大学出版部編『卒論・ゼミ論の書き方』早稲田大学出版部 2000.11

生田茂、松尾篤、山口哲郎著『化学のためのインターネット活用法』講談社 2000.9

過去の新聞記事を探す

過去の記事を探すには次のような方法が一例として挙げられます。

- ①年月日がわかっている場合
該当年月日の新聞を探します。
- ②年月日がわからない場合
大きな出来事ならば事典などで年月日を調べた後、該当年月日の新聞を探します。
最近の出来事であれば記事検索のできる新聞社のホームページで検索します。
- ③ある事柄について過去から現在まで体系的に記事を読みたい場合（概略を知りたい場合）
新聞の年鑑を読んだり、記事検索のできる新聞社のホームページで検索します。
例えば秋田魁新報や毎日新聞などのホームページでは過去3ヶ月～3年程度の記事検索ができます。
また、読売新聞のホームページでは写真を検索することができます。

…それでも見つけられない時には…

図書・情報センターではオンライン情報サービス「日経テレコン21」を導入し、過去の新聞記事についての代行検索をしています。探している記事などがありましたら職員までご相談ください。

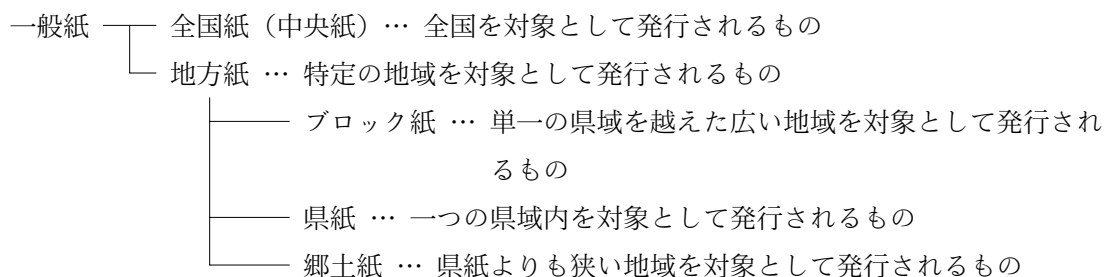
「日経テレコン21」には日経四紙、全国紙、地方紙、専門紙など三十数紙が収録されており、検索対象とする新聞を選択し、検索対象期間を指定してキーワードで検索することができます。検索できる新聞の記事の収録期間は新聞ごとに異なりますが大体3～15年程度、検索できるのは発行日の2、3日後からとなっています。

詳細は下記URLの「日経テレコン21」「記事データベース」をご覧ください。

<http://www.nikkeimm.co.jp/manualindex.html>

～ マメ知識：新聞の種類 ～

新聞は発行の形態によって次のように分類することができます。



専門紙 … 特定の主題分野を専門に扱っているもの

機関紙 … 特定の団体が広報、教育などを目的として発行しているもの

《参考文献》『日本大百科全書12』小学館 1986.11

日本図書館協会編『図書館ハンドブック』日本図書館協会 1990.4

— 図書館からのお知らせ —

《「雑誌記事索引ファイル」を利用できます》

図書館では、平成13年10月から国立国会図書館作成の「雑誌記事索引ファイル」を提供しています。学内の端末からインターネット上で、利用することが可能です。図書・情報センターホームページからリンクをはっていますので、そこから御利用ください。（4頁 図書館利用案内参照）

「雑誌記事索引ファイル」は、国内刊行和雑誌に掲載された記事情報を収録した索引ファイルです。現在9,000誌ほどの雑誌を収録対象としており、1975年より現在まで、2週間ごとに最新情報が追加・更新されます。

《ご存じでしたか？ —— 雑誌の貸出期間の変更について》

平成13年6月25日より雑誌の貸出期間を変更して運用しています。貸出期間は短くなりましたが、最新号の貸出しを始めました。どうぞご利用ください。

区 分	貸 出 期 間			冊 数
	最 新 号	最 新 号 以 外	雑 誌 以 外 の 資 料	
本学の教職員	1日以内	1週間以内	1箇月以内	15冊以内
本学の学生	1日以内	3日以内	2週間以内	5冊以内

※雑誌については休業期間中の学生への特別貸出の対象となりません。通常期、休業期とも上記の貸出期間となります。

《図書館の休日夜間無人開館について》

平成14年1月より図書館の休日夜間の無人開館を次のとおり実施する予定です。
マナーを守って正しく利用してください。

利用対象者：本学の教職員・学生・大学院生

※一般県民やICカードを所持していない方は利用できません。

無人開館時間：月～金曜日 19時（学生休業期間中は17時）～22時

土・日・祝日 9時～19時（学生休業期間中は17時）

※月～金曜日の9時～19時（学生休業期間中は17時）は職員がいます。

※資料整理日（偶数月の月末日）や年末年始は全面閉館します。

利用できるサービス：図書、雑誌の館内閲覧

蔵書検索用端末の利用

ABC（自動貸出返却装置）で処理可能な図書の貸出し・返却

利用できないサービス：視聴覚資料、CD-ROMの閲覧

ABC（自動貸出返却装置）で処理できない資料（雑誌、視聴覚資料、附属資料のついた図書など）の貸出し・返却

館内資料の複写

学外への文献複写の依頼、レファレンスなど

共同研究室、グループ閲覧室の利用

《図書館オリエンテーション》

図書・情報センターでは昨年度より毎年、新入生を対象にした「図書館オリエンテーション」を開催しています。今年度も多数参加いただきました。

（写真：図書運営部会長 松本教授による講話
4月25日秋田キャンパス）



秋田県立大学 図書館だより No.3 2001年10月発行

秋田県立大学 図書・情報センター (URL:<http://www.akita-pu.ac.jp/library/lib.html>)

●秋田キャンパス

〒010-0195

秋田市下新城野字街道端西 241-7

TEL018-872-1561 FAX018-872-1674

E-mail:a_library@akita-pu.ac.jp

●本荘キャンパス

〒015-0055

本荘市土谷字海老ノ口 84-4

TEL0184-27-2049 FAX0184-27-2185

E-mail:h_library@akita-pu.ac.jp

*御意見・御要望等をお寄せください。